



No. '25-4

(No.123)

Oct. 2025

# ISGG NEWSLETTER

## 伊東市善意通訳の会

### CONTENTS

1. 対馬丸の悲劇	菊池 善次郎	2
2. 夜空の競演	藤本 稔	6
3. 長い間会っていない友達、 Susan と彼女の友達 Family の伊東訪問	小松 二美	9
【Report on the September 2025 English Salon】	加茂野まり子	11
【K's サロンからの報告】	小松 透	13
【事務局便り】		14
【編集後記】		14



つしままる  
**対馬丸の悲劇**



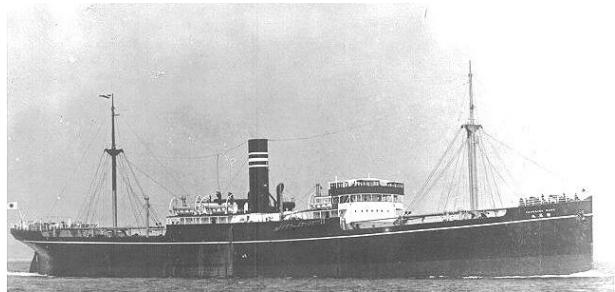
菊池善次郎

『令和 7 年、今年は戦後 80 年と云う節目の年です。・・・』。この 1 年間、新聞、雑誌、テレビ等によく出てきたニュース記事の書き出しです。そして太平洋戦争体験者の証言や戦争による悲劇、その反省を伝える報道がいろいろとメディアで数多く取り上げられてきました。世代がどんどん替わり、戦争の悲劇がややもすると風化しつつある現在、改めて戦争の恐ろしさや悲劇を多くの人が持続的に共有していく為に、又、戦争のない世界が如何に有難いことかをみんなが再認識するために意義あることだと思います。

戦争の話は「もういいです」「分かってます」と云う人もいるかもしれません、以下に述べる私の話も 80 年と云う節目の年に因んでどうか読んで見て下さい。私が現役中 40 年近く勤めた会社の船で起こった 81 年前の悲劇の話です。当時私は 5 才。勿論何も知らない、全く記憶にない話です。

●悲劇の概要

1944 年、太平洋戦争が終わる約 1 年前、**対馬丸**（以下”本船”）は日本陸軍に徴用（戦時に軍の指揮下にあること）されて運航されていました。戦争は日本の敗北が段々と色濃くなりつつあった時です。



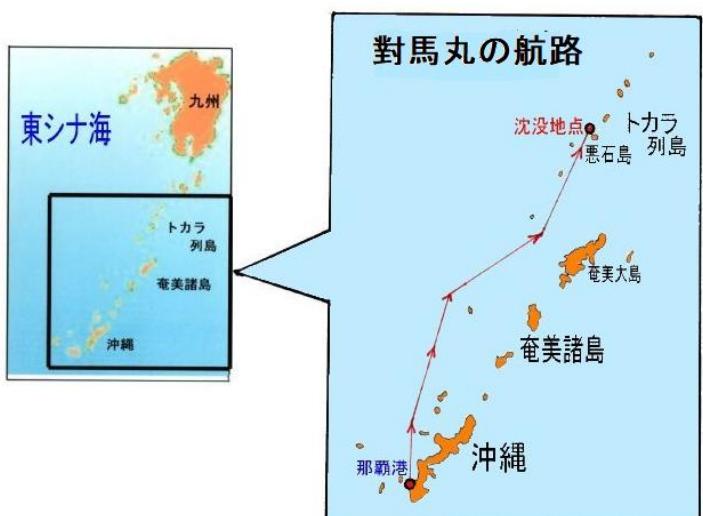
対馬丸

（日本郵船歴史博物館資料ヨリ）

アメリカ軍は南の方から日本本土上陸を目指しサイパン島の次は沖縄上陸必至の状況になりました。

そこで政府は沖縄に住む人々（主に老人、女性、子供）を本土に疎開させることを決定、本船はその任務に当たりました。沖縄から本土に疎開者を運ぶ仕事です。

1944 年 8 月 21 日午後 6 時過ぎ、本船は同



じ任務に任命された他の2隻の船（*暁空丸*/*和浦丸*）と共に護衛艦2隻に護衛され沖縄那覇港を出帆しました。奄美諸島、トカラ列島沿いに北上して九州長崎に向かう予定でした（地図参照）。

那覇出帆時の乗船者数：西沢武雄船長他乗組員/軍関係者	計 86 人
疎開者；那覇国民学校の児童	計 834 人
先生/付添人など	計 827 人 (疎開者合計 1,661 人)
乗船者合計 1,747 人	

西沢船長は本船のスピードが遅いこと（約 11 ノット）と当時この海域がアメリカの潜水艦の脅威が極めて高いことを知っており、ジグザグコースで航海すべきことを主張しましたが、日本軍の輸送指揮官はこれを拒否、已む無く最短距離となる直線コースで航海することとなりました。

一方、アメリカ軍は多くの潜水艦を日本の南西海域で哨戒に当たらせ、日本軍の船舶による人や物資の輸送を妨害していました。沖縄からの住民の本土への疎開移動は日本軍の暗号が事前に解読され既にアメリカ軍に知られていきました。對馬丸が那覇港を出帆した翌日（8月22日）の朝、奄美諸島付近で哨戒任務に当たっていたアメリカの潜水艦ボーフィン(USS Bowfin)は對馬丸ほか計 5 隻の船団をレーダーで捉えました。魚雷攻撃を夜に実施と決め船団の後から適当な距離を保ちながら接触を続けました。

8月22日午後10時9分、米潜水艦ボーフィンは對馬丸船団との距離を約 2.6 キロに詰め、且つ、夜陰に乗じて海上に浮上、船団をはっきり目視した上で艦首発射管から魚雷 6 本を発射しました。場所はトカラ列島の悪石島（今年7月3日大地震のあった島）の北西約 10Km 程の海域。魚雷は對馬丸の No.1 船倉、No.2 船倉、No.7 船倉の左舷側に命中。更にその後 No.5 船倉にも魚雷を受けました。對馬丸はすぐに傾き始め、魚雷を受けてから約 10 分後、爆発を伴いながら海底に沈んでいきました。多くの疎開者、子供たち、乗組員、軍関係者と共に。あっという間の轟沈だった。

同行していた暁空丸/和浦丸の2隻と護衛艦2隻は對馬丸の生存者の捜索も救助もせずその場を全速力で去っていました。生き残った船はその場から逃げるというのが当時の日本軍の申し合わせだったということです。何と哀れで悲惨な非人道的な話だろう。

對馬丸は疎開者輸送の為、本来貨物を積むためのホールド（船倉）をカイコ棚の様な居住区域に改造

し、疎開者たちはそこに入れられました。甲板に出るには狭い階段が一つあるだけです。魚雷が4発命中、瞬く間に船倉に大量の海水が流入、真っ暗な中で子供たち、老人や婦女たちは何が何だか分からないまま船倉の中で泣き叫び、助けを求め、出口に殺到しました。必死の思いでやっと外に出られた人たちも船首を直立に持ち上げながら沈んでいく本船からバラバラとこぼれ落ちる様に真っ暗な海に落ちていきました。波の高い時化の海でした。そんな対馬丸の地獄絵の様な現場の状況は容易に想像が出来ます。それでも運よく助かった人たちは浮遊物につかり、荒れた海を数日間漂い、漁船に助けられたり奄美大島に流れついたりしました。生存者は合計たったの280人。その内児童は59人でした。

沖縄対馬丸記念館（沖縄）の資料によると犠牲者の明細は以下の通りとなっています。対馬丸に乗っていた人たちの約9割が亡くなつたことになります。

対馬丸の犠牲者： 疎開児童 784人、

先生/付添人など 655人

乗組員/軍関係者 45人

---

犠牲者合計 1,484人 （注）対馬丸記念館（沖縄）資料による。

この対馬丸事件は軍の命令によって 緘口令（絶対の秘密）が敷かれ、しばらくは国民の知るところではなかった。そんなこともあって上記疎開者数や犠牲者数には資料によって若干の違いが出ています。

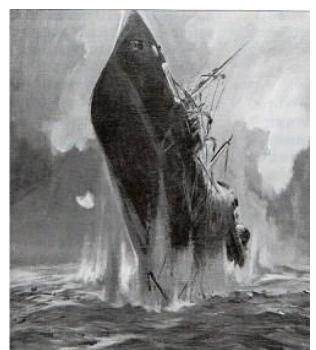
### ● おわりに

資源の少ない島国日本。武器や弾薬などの原料や材料、ガソリン/石油などの燃料、その他人々の生活に必要なものは殆どを海外に頼っていた

日本（今も昔も同じです）。それらの輸送は偏に船が担っていました。

アメリカ軍は日本を海上封鎖し、つまり兵糧攻めによってそれら資

源や食料などの日本国内への流入を遮断することが日本との戦争で勝つ手っ取り早い策であることを早くから考えていた様です。そのため強大な生産力で潜水艦を大量建造し、それらを続々と日本近海に送り込んでいました。それら潜水艦の魚雷攻撃によって対馬丸に限らず、実に多くの



雷撃を受けた敵用貨物船

大久保一郎画伯遺作

船長(協会月報よりコピー)

日本の輸送船が次々と海に沈められて行きました。その数は何と次の様な驚くべき数字となっています。

商船（100トン以上）・・・・・・3,575隻（日本の商船の88%を失う。日本商船隊の壊滅）

機帆船及び漁船・・・・・・・3,665隻

戦没船員数 ・・・・60,643人（死亡率43%。陸軍兵士の死亡率20%や海軍の死亡率16%に比べても遙かに高い数字）

（以上、全日本海員組合資料による）

戦後80年間、原爆投下や東京大空襲/沖縄戦の悲劇はよくニュースの話題になってきましたが、船舶や船員の状況はこれまで多く語られてこなかったと思われますので以上付け加えました。

（備考）

1. 参考資料；日本郵船歴史博物館資料

対馬丸資料館（沖縄）資料

USS Bowfin Log Book（抜粋）

全日本海員組合資料

その他 Internet 等

2. <sup>つしままる</sup>對馬丸要目；船名・・・船体に書かれた船名は「對馬丸」。近年の資料等では「対馬丸」。

建造・・・1915年2月22日 於、グラスゴー（英國）

所有者・・・日本郵船（株）

運航者・・・大日本帝国陸軍（徵用船）

総トン数 6,754トン 長さ 135.64m 幅 17.64m 深さ 10.36m

喫水 2.71～8.19m(Max) 主機；蒸気機関 燃料；石炭 推進機；2軸

出力；4,396馬力(Max) 速力；11ノット～13.9ノット(Max)

## 夜空の競演



藤本 稔

私は、今年伊東市自然歴史案内人会の会員になったばかりの新米で、案内人として独り立ちできるよう、日夜研鑽に明け暮れている毎日です。

私は現在、市街地部会と東郷記念館部会に所属しておりますが、今回市街地部会にて  
2025年8月10日に行われた伊東「按針祭」のメインイベントである花火大会の会場案内ボランティアとして参加することになりました。按針祭は、今回で第79回目となる伊東の伝統的なお祭です。  
ここで少し、伊東「按針祭」に触れておきましょう。

今から400年以上前の1604年～1605年、オランダの商船隊の航海長であったイギリス人のウイリアム・アダムスという方（日本名：三浦按針）が、徳川家康の命を受け、伊東市の松川河口で、2隻（80トン・120トン）の我が国最初の洋式帆船を建造したことを記念したお祭りです。

三浦按針が建造した内の1隻は、当時のスペイン領フィリピン諸島

総督のドン・ロドリゴによって太平洋を横断した日本最初の  
洋式帆船でもあります。

この帆船は、太平洋を横断して北アメリカ大陸西岸を経由し、  
アカプルコ（メキシコ）に到着しました。 ドン・ロドリゴは  
この航海が楽しい船旅だったことから “SAN BUENA VENTURA  
サン・ブエナ・ベンツーラ号” と名付けたと言われています。



伊東で建造された様式帆船（120トン）  
さて、話を花火会場に移しましょう。

8月10日は、朝からあいにく小雨模様で開催が危ぶまれましたが、会場スタッフの集合時間前には開催実行委員会から開催する正式なアナウンスがあり、その心配も安堵に変わりました。

花火開始は、午後8時から1時間、約1万発の花火が打ち上げられると聞いていましたので、どんな花火が上がるのか楽しみでした。打ち上げ場所は、伊東港を囲む5か所の堤防や岸堤から予定されており、観覧席は松川河口の「なぎさ公園」をメイン会場に、伊東オレンジビーチなど全3会場に有料観覧席が設けられていました。

私が参加した「なぎさ公園」会場は、通常は車の有料駐車場になっているのですが、今回はなんと一面パイプ椅子が整然と並べられているではないですか？ 数えてみるとその数なんと2,000席。

私達ボランティアの役割は、会場入り口にて

花火大会会場案内地図



花火大会の案内パンフレットの配布と来場者の会場席（指定席）への案内が主な仕事でした。会場の入場時間は午後7時となっておりましたので、まだ空が明るいうちからそれぞれの準備に追われました。天候は、やや持ち直したもので時折小雨となり、雨合羽を着るなど蒸し暑さも重なって少し大変ムード・・・

まだ、明るさが残る中ふと伊東港の沖に目をやると、なんと豪華客船が停泊しているではありませんか？ 事前情報では、日本の誇る“飛鳥Ⅱ”によるこの花火大会を観戦するツアーが計画されたとのことで、横浜港からはるばるやってきてくれていました。“飛鳥Ⅱ”的めなら、ちょっとした雨ぐらいで中止にはできませんものね！！

伊東港には豪華客船を接岸できる港がないため、今回のように沖の停泊になっていました。

じっと目をこらしてみると“飛鳥Ⅱ”がゆっくり向きを変えて、海上から伊東の町を眺めながら、花火の打ち上げを今か今かと待っているように思えました。晴れいたら、夕日が“飛鳥Ⅱ”的船体に映えてさぞかし、風情があったことでしょう！！ 私も、いつの日か“飛鳥Ⅱ”的ような豪華客船で旅してみたいです。

さて、開場に目をやると、開場時間が近づくにつれ続々とお客様が詰めかけ、席への案内も忙しくなってきました。隣接する国道135号は、今日の日は全面通行止めになっており、道路一杯の来場者で埋め尽くされているではありませんか？ 指定席券を持っている方には、席まで案内した後、雨で濡

れた椅子を一つ一つタオルで拭くことになっておりましたので、今回初めての経験もあり、かなりの労力が必要になりました。 花火が打ち上げられる時間近くには、タオルで指の皮が擦り切れそうになりました。でも、拭いた後に“ありがとう”とねぎらいの言葉をかけてくださったお客様もあり、仕事とは言え、何か達成感というか、力が出てくるような気持になりました。

あわただしく来場者の案内をする中、花火の打ち上げ時間が迫ってきました。 まもなく場内アナウンスによる“カウントダウン”が始まりました。

5、4、3、2、1 一発目の10号玉が打ち上げられ、海の花火大会の開幕です。

午後8時過ぎには、2,000席もある観覧席がすでにいっぱいになりました。 小雨でもファンのすごい勢いにはびっくりです。

花火大会のプログラムでは、前半30分が  
サンライズステージ“太陽のときめき”，  
後半30分が、スターライトステージ  
“星空のきらめき”と題し、企業や個人から  
提供された色とりどりに工夫された花火が夜



空一面に打ち上げられました。

夜空の競演

打ち上げられた花火を観ると、若かりし大昔に観た記憶がよみがえって、しばらく茫然と立ち尽くすばかりでした。 会場が打ち上げ場所の中央に位置しているせいか、自分の頭の真上に打ち上げられたよう錯覚し、また、花火が開花するとときの“ドーン”という音が、体の芯に響きわたるようで、感無量になりました。 一時間にわたる花火の競演も終盤には、スターマインのオンパレードになりました。 最後に15号玉の一発が打ち上げられ、今回の花火大会の締めくくりとなりました。

私は、伊東市（八幡野）に移住して5年目になりますが、今回の海の花火大会を鑑賞したのは初めてとなりました。 この感動を忘れず、また来年の打ち上げを楽しみにしたいと思います。 それとも豪華客船から観覧することにしますか？？？

# 長い間会っていない友達、Susan と彼女の友達 Family の伊東訪問



小松 二美

今から 30 年以上も前になるでしょうか、私は東京の少人数のアメリカの会社で働いていましたが、その時の上司の一人の娘さんが Susan でした。アットホームな会社でアメリカ本社から Visitor があったときには家族同伴でランチやディナーをすることが多かったことを覚えています。Susan とは年も近いせいか親しくなり個人的にも何回も会いました。しかし、一緒に滞在していたお母さんが日本に馴染めなかったことが理由で半年後には Susan もアメリカへ帰国してしまいました。それ以降は時々メールと一年に一回のクリスマスカードのやり取りで繋がっていました。Susan が帰国してしばらくして California の自宅におじゃましました。彼女は学校の先生、日中は仕事なので、お母さんが近くを案内してくれました。Susan は週末に演劇に招待してくれました。英語が難しくてほとんど分からなかったのを覚えています。また、その土地では名のあるライブハウスにも連れて行ってくれました。それぞれ無名の人たちのようでしたが、歌あり踊りありで、選りすぐりのアマプロぶり、素晴らしかったです。ブレイクタイムにはお客様も踊ったりできて参加して楽しかったです。それから、さらにだいぶたつた頃でしょうか、California へ旅行して Torrance の Marriott Hotel に泊まった時、お母さんと一緒にホテルを訪ねてくれて、一緒に食事をしました。そのお母さんは 10 年ほど前に亡くなりましたが、その時にはまだ健在で、仕事真面目で難しい顔つきしがちな Susan をとても心配しており、食事中、話が弾んで、彼女が笑うと、彼女にはこの笑顔が必要なのよと繰り返していたことを昨日のように覚えています。2、3 年前から友達家族と日本に来たい、久々の東京が見たい、私とゆっくり話がしたい等とメールやカードで知らせてくれましたが、定年を迎える、時間もできたとのことで今年に来日となりました。

さて、前置きが長くなりましたが、6/13 金曜日（曇りでしたが、雨にならずに感謝）に、まず城ヶ崎の

ボラ納屋でランチ、それから城ヶ崎海岸の灯台や吊り橋を案内して、時間が許せば、大室山や奏での森へと簡単な日程表を作り準備していました。Susan と友達家族計 5 名 (Karen、ご主人、David、息子さん、Cedar、娘さん、Sierra) と我々二人、車が 2 台必要との事で ISGG メンバーの相良さんに相談したところ、快く引き受けいただきました。

6/13 朝 10 時前、Susan よりメールで新宿駅にいるが、想像以上に大きな駅、予定していたよりも伊東駅到着は遅れそうだと連絡がありました。相良さん含めて我々 3 人は 12 時半過ぎにはジョナサンで待機していましたが、結局、伊東着は 14:10、電車の乗り換えに戸惑ったりしながら大変だったでしょう。それでも出迎えたときには皆疲れも見せず元気そうでした。Susan も私のことをすぐに気が付いてくれました。ランチ場所、ボラ納屋に向かいました。

ボラ納屋までの途中、ドライバーの主人と隣に私、後部座席には、Susan、Karen、David が乗車しました。Cedar と Sierra は相良さんの車に乗りました。David はとてもお話し好きな人、将来は日本の伊豆あたりかギリシャに住みたいとの事、ベトナム戦争にも兵士として行っていたそうで優しいベトナム人に会えてよい思い出があることも教えてくれました。専ら三人の共通の話題はトランプ大統領の事、悪口で花が咲きました。3 時までにお店に入る必要があるとの事、どうもぎりぎりに着きそうで、ハラハラ、お店の方に、3 度ほど連絡、なんとか間に合いました。セットものを何点か頼んで皆でシェアしましたが、どれもとても美味しかった。皆喜んでいました。(写真参照)。

それから、城ヶ崎に向かいました。曇りの天気でさほど暑くもなく風も適度にありでちょうど良い感じ、6/11、12 と東京の雑踏の中にいて、今や城ヶ崎海岸の絶景を前にし、感動したのでしょう。ここに来てよかったですといずれも口にして



いました。吊り橋も少し怖かったみたいだけど、皆楽しんでいました。

その後、お茶の時間をと思い、奏の森へ行きましたが、すでに 5 時を回っていたため、お店が閉まっていて、森を少々散策して、ジョナサンへ向かいました。8 名だったため、テーブル 2 つになりましたが、いろいろな話で盛り上がりしました。パフェなど甘物を頼む人が多かったけど、お腹が空いたのか夕食を

頼む人もいました。Susan は私の前に座っていましたが、パフェを頼みました。アメリカのパフェはこんなに美しい層でまとめられていないと言っていました。味もよかったです。満足していました。それぞれいっぱい喋って楽しくて気が付いたら 7 時半ほどの時間になっていました。ホテルはすぐ先の緑風園、そろそろチェックインしないといけないねということでジョナサンを出てホテルに向かいました。もうお別れかと残念になりました。それでも、皆、ハグをして笑顔でお別れしました。

遅ればせながら、ここで Susan と友達家族、計 5 名のお話をします。我々のメンバー、相良さんがボラ納屋とジョナサンで母 Karen と息子、娘について完璧な聞き取りをしてくれました。

Karen は日系 3 世、日本語の単語は少し分かるけど完全にアメリカ人になっているようです。お祖母ちゃんが健在の時にはお雑煮を作ってくれたそうです。お兄ちゃんの Cedar は高校生の時に和歌山県の新宮市に留学したとの事でかなりの日本通、戦時中、祖父母が敵性外国人キャンプに送られた時の身分証明書の写真を見せてくれたそうです。妹の Sierra は大学 3 年生、今回の旅行はイギリスの Manchester に 2 週間の交換派遣生として滞在、アメリカの Wisconsin 州に帰る途中に今回の日本への家族旅行に合流したそうです。家族仲が良く、皆とても Friendly、特に母娘の仲が良いのが印象的でした。また、Susan と友達の Karen の関係ですが、大学時代からの付き合いだそうです。Susan は California 州に、Karen 家族は Wisconsin 州にそれぞれ住んでいますが、長い付き合いの友達なのでこうして時々合流して一緒に旅をするのだそうです。

相良さん、ご協力ありがとうございました。Susan 達もとても感謝していました。

## Report on the September 2025 English Salon

Date held: September 27, 2025 from 1:00pm to 3:00 pm

Place: Wakaba café

No. of Participants: Total 13 (1 ALT, 12 ISGG members)



Mariko Kamono

This month's theme: **What do you think the charm of Ito City?**

---

### <Summary>

- The order of presentations was determined by the Chinese zodiac, starting from the

year of rat. (Apologize for those who felt uncomfortable for using zodiac as it might have given other person to figure out the presenter's actual age)

- It was very interesting and informative occasion to learn that people feel the charm of Ito City in different ways depending on their circumstances—such as where they live and how long they've lived there.
- Participants shared the common view that Ito City is:

\* blessed with abundant natural beauty and historical sites

\* having a moderate and maritime climate that is pleasant to live in which is affected by a long coastline along the east side of the city.

\* having many hot spring facilities with Japan's fourth-largest hot spring output.  
\* a comfortable place where urban and rural elements blend together in just the right balance.

\* having many quaint architecture that evoke the atmosphere of the Showa area.

\* a compact and cozy place to live but still good access to big cities.

\* offering many special local products such as dried fish, Guri-cha green tea, shiitake mushrooms, mandarins, and manju sweets.

\* having numerous art museums, especially in Izukogen area.

- Some interesting points are also shared as below:

\* beautiful scenery from the tower of Kawana Hotel

\* the scenery of Ohshima Island viewed from Ito City, which shows different faces from time to time.

## K's サロンからの報告



小松 透

簡単ですが K's サロン 9 月開催の報告をします。まだ暑いですが少ししのぎやすくなりました。

### 第19回 K's サロン 2025年9月18日（木）

参加人数： ISGG 4名、ゲスト4名

#### Unace (ユナス) 女性 Hong Kong 新界

ワーキングホリデーで来て、K's ハウスで働いている。伊東の前は大阪に行って EXPO も見てきた。このあと瀬戸内海の祭りに行く予定。東京、北海道も行く。

煎餅の“ばかり”を気に入り、業務スーパーで買ってみるとのこと。



#### Selina 女性 Germany 南部の Geisling

同じくワーキングホリデーで来歩いて、Unaceと一緒に K's ハウスで働いている。来年 4 月まで日本に滞在する予定。日本のポップス (Yasobi、One OK Rock など) が好きで、前から日本語を勉強しており少し話せる。”メッチャ”とか“え～～”とか使いこなしている。温泉が大好き。

#### Mattea 女性 Germany 南部

偶然 Selina と同じドイツの Geisling 近くの出身。日本に来てまだ 4 日目。これから金沢、京都、大阪

などを周る予定。

おこしにチョコレートをかぶせたようなドイツ菓子をわけてくれた。ドイツではよくあるお菓子とのこと。

ドイツでもオーバーツーリズムは、フランスやイタリア程ではないが、問題になって来ている。例えばノイシュヴァンシュタイン城。久しぶりにドイツに戻った時、街でドイツ語を話している人が殆どいなくて驚いたことがある。

またロシア、トルコなどからの移民がコミュニティを作っている。ドイツ語を話さなくても用が足りるためドイツ語を話さない。ドイツで生まれた人でさえ学ばない人が居る。

ドイツの国土は今やドイツ人のものではなく、Everybody のものになっていると Selina も言っていた。

#### **Lauriann 女性 France アルプス モンブランの近く**

ホステルを周って旅をしている。Selina と Unace に京都のホステルで出会って友達になり、伊東の K's ハウスを教えてもらって来たとのこと。

この後は富士山を見に、富士宮に行く予定。やはりホステルに泊まる。

Selina と Unace はその後 2 週間伊東に居る予定だったが、その後 2 回も街で偶然出会うことがあって、楽しく話をした。

#### **【事務局便り】**

多くの方が経験したこともないような極暑の夏でしたが、当会は例年とおり 8 月は活動休止でした。只、多くの会員が伊東国際交流協会主催の英国メドウェイ市及び伊国リエティ市との高校生交換プログラムに参加し、空港送迎・市内観光案内・歓迎会等で活発な活動を行いました。9 月からは通常の月例イベントであるイチゴサロン、英語サロン、K's サロンを開催し、和やかなうちに活発な活動を行っています。

#### **【編集後記】**

猛暑が長く続き、「日本はこのまま熱帯化するのではないか?」と思い始めた時、いきなり秋風、そ

して冷たい雨が降り出しました。

今年は戦後80年— つまり戦争を自身の体験として知っている人はほんの一握りになってしまいました。そんな時、菊池さんの対鳥丸の記事は重く戦争の非情さ、残酷さを伝えてくれました。大空襲や原爆など広く語り継がれていることだけでなく、あちこちに悲惨な歴史があることを私たちは知らなければいけないし、子供たちに語り伝えていかなければならないと思います。

藤本さん、案内お疲れさまでした。寸前まで雨が降りそうでハラハラしましたが、無事、恒例の按針祭の花火が華やかに上がりました。

小松さん、旧交をあたためられて、また新しいお友達にも伊東の美しさ、落ち着きを知っていただけてよかったです。

K's サロンも英語サロンも和やかに行われ、加茂野さん、英語でのレポートをありがとうございました。

今号の投稿は3編ですが、一つ一つがとても読み応えのあるお話です。ありがとうございました。

あなたの身近な出来事など、皆様の投稿をお待ちしております。(稻葉 記)

伊東SGGのホームページが新しくなりました。下記枠内のURLにアクセスをお願いします。

伊東市善意通訳の会 (ISGG)  
会長 主原 一雄  
(事務局) 〒413-0232  
伊東市八幡野 1324-40 主原 一雄  
e-mail: [larryn@estate.ocn.ne.jp](mailto:larryn@estate.ocn.ne.jp)

(ホームページ) <https://itosgg.org>  
(編集委員) 稲葉尚子 曽我廣子 加藤達雄